

4 死因分析

(1) 死因別死亡確率

人はいずれ何らかの死因で死亡することになるが、生命表上で、ある年齢の者が将来どの死因で死亡するかを計算し、確率の形で表したものが死因別死亡確率である。

令和3年の死因別死亡確率をみると、0歳では男女とも悪性新生物<腫瘍>が最も高く、次いで、心疾患（高血圧性を除く。以下同じ）、脳血管疾患、肺炎の順になっている。65歳では男女とも0歳に比べ悪性新生物<腫瘍>の死亡確率が低く、心疾患の死亡確率が高くなっており、75歳及び90歳では更にこの傾向が強くなっている。

前年と比較すると、悪性新生物<腫瘍>の死亡確率は、0歳、65歳、75歳及び90歳のすべての年齢で男女とも低下している。心疾患の死亡確率は、男では0歳、65歳及び75歳では低下し、90歳では上昇しているが、女では0歳、65歳、75歳及び90歳のすべての年齢で低下している。脳血管疾患及び肺炎の各死亡確率は、0歳、65歳、75歳及び90歳のすべての年齢で男女とも低下している。

「悪性新生物<腫瘍>、心疾患及び脳血管疾患」の死亡確率は、男女ともすべての年齢で5割を下回っており、前年と比較すると0歳、65歳、75歳及び90歳のすべての年齢で男女とも低下している。（図5、表6）

図5 死因別死亡確率（主要死因）（令和3年）

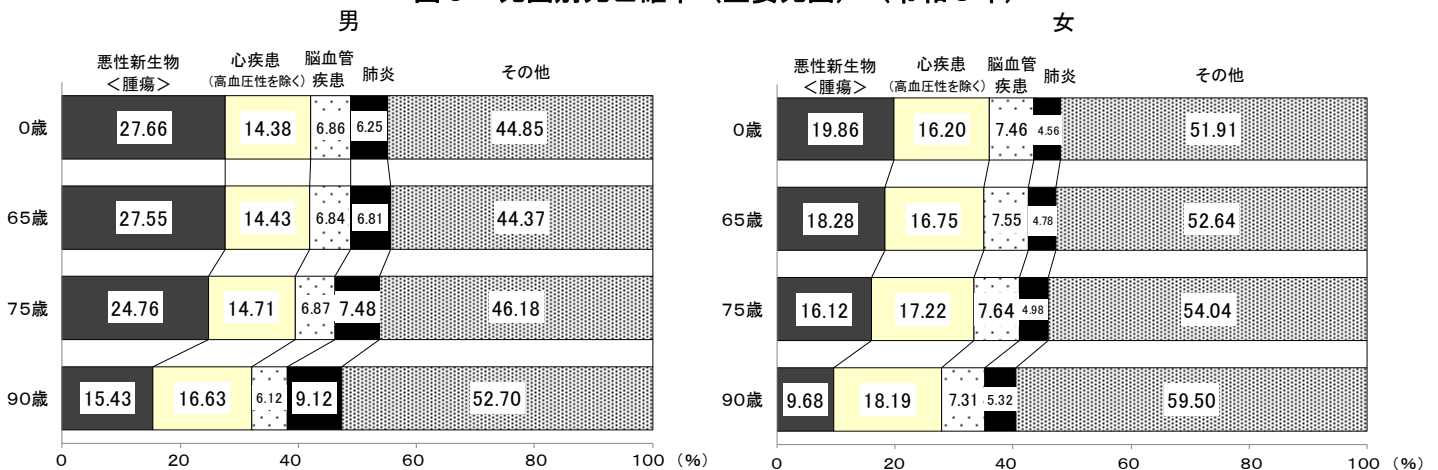


表6 死因別死亡確率（主要死因）の推移

主要死因	年齢	男					女				
		平成29年	30年	令和元年	2年	3年	平成29年	30年	令和元年	2年	3年
悪性新生物<腫瘍>	0歳	28.72	28.23	28.20	28.33	27.66	20.03	20.01	19.95	20.18	19.86
	65	28.35	27.93	27.97	28.22	27.55	18.32	18.31	18.26	18.58	18.28
	75	25.18	24.90	25.04	25.39	24.76	16.12	16.13	16.10	16.40	16.12
	90	15.28	15.30	15.58	16.02	15.43	9.72	9.67	9.69	9.87	9.68
心疾患 (高血圧性を除く)	0歳	14.33	14.42	14.22	14.41	14.38	17.22	17.15	16.71	16.45	16.20
	65	14.44	14.55	14.29	14.47	14.43	17.82	17.75	17.27	17.02	16.75
	75	14.79	14.86	14.54	14.75	14.71	18.32	18.24	17.74	17.48	17.22
	90	16.49	16.67	16.19	16.45	16.63	19.18	19.24	18.60	18.41	18.19
脳血管疾患	0歳	7.66	7.41	7.20	7.00	6.86	8.71	8.36	8.06	7.79	7.46
	65	7.70	7.44	7.19	6.99	6.84	8.86	8.48	8.17	7.87	7.55
	75	7.86	7.54	7.27	7.03	6.87	9.00	8.59	8.29	7.97	7.64
	90	7.33	6.91	6.63	6.36	6.12	8.74	8.29	7.95	7.64	7.31
肺炎	0歳	8.81	8.44	8.43	7.07	6.25	7.27	6.88	6.68	5.33	4.56
	65	9.66	9.22	9.18	7.68	6.81	7.62	7.21	7.00	5.58	4.78
	75	10.72	10.19	10.14	8.44	7.48	7.99	7.56	7.31	5.82	4.98
	90	13.73	12.83	12.64	10.31	9.12	8.99	8.51	8.10	6.33	5.32
悪性新生物<腫瘍>、心疾患 (高血圧性を除く) 及び脳血管疾患 (再掲)	0歳	50.71	50.06	49.62	49.75	48.90	45.96	45.52	44.72	44.42	43.52
	65	50.50	49.92	49.45	49.68	48.82	44.99	44.54	43.70	43.48	42.59
	75	47.83	47.29	46.86	47.16	46.34	43.44	42.96	42.12	41.85	40.98
	90	39.11	38.88	38.41	38.83	38.19	37.64	37.21	36.24	35.92	35.18

注：令和2年は完全生命表による。

(2) 特定死因を除去した場合の平均余命の伸び

ある死因で死亡することがなくなったとすると、その死因によって死亡していた者は、その死亡年齢以後に他の死因で死亡することになる。その結果、死亡時期が繰り越され、平均余命が延びることになる。この伸びは、その死因のために失われた平均余命としてみることができ、これによって各死因がどの程度平均余命に影響しているかを測ることができる。

令和3年の特定死因を除去した場合の平均余命の伸びを主要死因についてみると、0歳、65歳及び75歳においては男女とも悪性新生物<腫瘍>、心疾患、脳血管疾患、肺炎の順になっている。90歳においては男女とも心疾患が最も大きく、次いで悪性新生物<腫瘍>、男は次いで、肺炎、脳血管疾患、女は脳血管疾患、肺炎の順になっている。

前年と比較すると、男女とも悪性新生物<腫瘍>、心疾患、脳血管疾患及び肺炎のどの死因でも0歳、65歳、75歳及び90歳のすべての年齢で特定死因を除去した場合の平均余命の伸びは短くなっている。

「悪性新生物<腫瘍>、心疾患及び脳血管疾患」を除去した場合の伸びは、0歳では男6.49年、女5.28年、65歳では男5.32年、女4.24年、75歳では男4.01年、女3.44年、90歳では男1.70年、女1.75年となっている。(表7)

表7 特定死因を除去した場合の平均余命の伸び(主要死因)の推移

(単位:年)

除去する 主要死因	年齢	男					女				
		平成29年	30年	令和元年	2年	3年	平成29年	30年	令和元年	2年	3年
悪性新生物 <腫瘍>	0歳	3.62	3.54	3.54	3.55	3.43	2.84	2.84	2.84	2.87	2.81
	65	2.92	2.87	2.89	2.93	2.83	1.96	1.96	1.96	2.02	1.97
	75	1.96	1.95	1.98	2.03	1.95	1.35	1.35	1.36	1.41	1.37
	90	0.55	0.56	0.59	0.62	0.57	0.41	0.41	0.41	0.44	0.42
心疾患 (高血圧性を除く)	0歳	1.40	1.41	1.41	1.44	1.42	1.32	1.31	1.28	1.26	1.23
	65	1.09	1.11	1.10	1.12	1.10	1.25	1.24	1.20	1.20	1.16
	75	0.91	0.92	0.91	0.93	0.92	1.18	1.17	1.13	1.13	1.09
脳血管疾患	0歳	0.75	0.73	0.72	0.71	0.69	0.71	0.69	0.67	0.66	0.62
	65	0.58	0.57	0.55	0.55	0.53	0.62	0.60	0.58	0.57	0.54
	75	0.49	0.47	0.46	0.45	0.44	0.57	0.54	0.52	0.51	0.48
	90	0.24	0.23	0.23	0.22	0.21	0.35	0.33	0.31	0.31	0.29
肺炎	0歳	0.59	0.57	0.58	0.49	0.43	0.45	0.43	0.42	0.34	0.29
	65	0.60	0.58	0.58	0.49	0.43	0.45	0.43	0.42	0.34	0.29
	75	0.60	0.57	0.58	0.48	0.42	0.45	0.43	0.41	0.33	0.29
	90	0.47	0.44	0.44	0.36	0.31	0.35	0.33	0.31	0.25	0.20
悪性新生物 <腫瘍>、心疾患 (高血圧性を除く) 及び脳血管疾患	0歳	6.81	6.70	6.65	6.69	6.49	5.61	5.55	5.45	5.46	5.28
	65	5.52	5.46	5.43	5.50	5.32	4.50	4.45	4.34	4.39	4.24
	75	4.12	4.08	4.07	4.15	4.01	3.69	3.63	3.55	3.58	3.44
	90	1.71	1.72	1.72	1.79	1.70	1.89	1.85	1.79	1.84	1.75

注:1) 令和2年は完全生命表による。

2) 「悪性新生物<腫瘍>、心疾患(高血圧性を除く。以下同じ)及び脳血管疾患」の数値は、以下の理由により「悪性新生物<腫瘍>」、「心疾患」及び「脳血管疾患」のそれぞれを合計した数値にはらない。

○「悪性新生物<腫瘍>、心疾患及び脳血管疾患」の数値:3つの死因を同時に除去していることから、3つのどの死因による死亡も発生しないものとして伸びが計算される。

○「悪性新生物<腫瘍>」「心疾患」「脳血管疾患」それぞれの数値:単独に死因を除去し、他の2つの死因を除去していないことから、当該2つの死因による死亡が発生するものとして伸びが計算される。